

国語

一

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

カウンセラーとして、学校に行かなくなった子どもと話をすることがある。その子たちに親が幸福であるのと不幸であるのとどちらがいいかとたずねると即答する、幸福であるのがいいと。子どもは自分のせいで親が不幸であることは望まない。

多くの子どもがこのように考えていることを私は知っているので、不幸に見える親には、あなたの子どもは、あなたが幸福であることを望んでいると伝える。親はなぜ子どもに自分が不幸であると見せるのか。それは、自分が不幸であるのは、学校に行かなくなったこの子どものせいだといいたいからだ。もちろん、こんなことを親が自覚しているわけではない。だが私は一生懸命子どもを育ててきたのに、この子のせいで不幸だと、無意識的に世間の同情を引こうとしているのである。

とはいえ、親が不幸であることをまわりの人に見せたとしても、子どもがそのことで学校に行くようになるわけではないのならば意味がないではないか、そう親に話すと、ようやく話を理解した親は、子どもとは関係なく **A** ことを自分にも許せるようになる。

老いた親の介護に日々 **X** を碎いている人も多い。十分すぎるほど親に尽くしているのに、なおも十分 **B** ができていないと思う人は、知らずして、自分がいかに大変な思いをしているか、どれだけ頑張っているかをまわりにウツタえようとしている場合がある。それは実のところ、介護を自分ほどはしていない他の家族への隠されたヒナ**b**ンでもあるのだが、介護をされている親は、自分の介護をしている子どもがそのような態度を取ることを嬉しいとは思わないだろう。

子どもであれ、親であれ、自分が **A** ことが先決である。最初のきっかけは何であれ、学校に行かなくなると、子どもは親が悩むのを見ることになる。以前は自分に注目してくれないと思っていた親が自分のことで **X** を碎いているのを見ると、学校に行かなければ親の注目を自分に引きつけられることを知る。

しかし、親が自分のことで悩み、不幸に見えることは、先に見たように、子どもが望むことではない。そうなると板挟みになる。

子どもが学校に行く、行かないは、最終的に自分で決めることであり、どちらの決[Y]をするのであれ、子ども自身の人生に大きな影響を与えることになるので、親が悩むことで子どもの判[Y]に影響を与えてはいけないと私は思う。親が[A]ことは、問題の解決に直接的には役立たないかもしれない。だが、少なくとも、子どもは冷静に自分の問題を見つめ、考えられるようになる。

子どもはそれまでの人生において親からそれほどよくしてもらっても、老いた親にそれをそのまま返すことはできない。親から受けたものは、自分に子どもがいればその子どもに返せばいいし、子どもがいなければ、何らかの形で社会に返せばいいのである。近年、韓国で講演する機会がしばしばある。その際、韓国の若い人たちからもさまざまな質問を受ける。韓国の若者も、たとえ親が反対しても自分の人生を生きるべきだと思っている点では日本の若者と同じだが、韓国では、日本では出てこない質問がされる。どうすれば親孝行ができるかという質問である。日本の若者が親のことを考えていないはずはないが、自分の人生を生きたい、しかしそのことが親を悲しませることになってはいけない、だから親の意向には逆らえない、そう思っている韓国の若者は、日本の若者以上に[C]になっている。

私はこんなふうに答える。一時的に親子の間に軋轢あつれきが生じることになったとしても、最終的にあなたが幸福になれば、それが究極の[B]だと。子どもが親を喜ばせるために犠牲になる必要はない。親は子どもの選択によって[X]が折れるような思いをすることがあっても、そのことは親が自分で解決するしかない。

自己[D]的な生き方を自らの意志で選んだ人を立派であると思うことは間違っていないが、私がキゲcするのは、そのような生き方が強制されたり奨励されたりすることである。生命を犠牲にするのでなくとも、誰かのために生きることが、それが親であつてもまた子どもであつても、よきことであると見なされ、そうしない人に圧力がかけられるのであれば怖い。親が子どもに、また子どもが親に献身することはあつてもいいが、それが道徳^②になつてはならない。

どれほど大変な日常での生活の中にあつても、ささやかな幸福を感じること以外の幸福はないと私は思う。そのように思うことをためらわせるものがあるとすれば、個人の幸福よりも共同体を優先しなければならないという考えになるだろう。この共同体の

意味については後に見るように、家族、さらに広くは国家も共同体だが、最小の単位は「私」と「あなた」なので、先に見た子育てや介護の例では、自分自身の幸福を親子関係よりも優先してはいけないのとためらう人があるということになる。

子育てや介護では、学校に行っていない子どもや介護を要する老いた親をさしおいて、私が幸福になっていいのかと思う。だが、この共同体の範囲をどんどん広げて、他の人が幸福でないのに自分だけが幸福になってはいけないと思うようなことになれば、その他の人は無限にいるので決して幸福にはなれないことになるだろう。

『維摩経』^{ゆいまぎょう}には釈尊の弟子である文殊菩薩が病気の維摩を訪ねる場面がある。この病気は何によって起こったのかという問いに維摩は「一切衆生が病んでいるので、その故に私も病む」と答えた。維摩は、**E**の苦しみをさしおいて、自分だけが幸福になることはできないと考えたのである。

自分だけが幸福になることはできないというのは、私も維摩がいう通りだと考える。たしかに、**E**の苦しむことが自分に関係がないと考えるのと考えないのでは大きな違いがあるだろう。しかし、だからといって**E**が苦しんでいる間は幸福になれないというわけではない。^③まず自分が幸福になっていいのである。

たしかに、世界では戦争がいたるところで起こり、横行するテロによって多くの人が**D**になっていたり、貧困のゆえに生活にキウウしたりしている。だが、そのような人を無視して、あるいは、**D**にして生きているわけではないのだから、自分がこんなふうにならずに温々と幸福をキョウジュしていいのかと考えるのではなく、現実を変える努力はする一方で、どんな状況においても人は**A**ことを、まず自分がモデルとなって**E**に示してもよいと思う。

戦前は滅私**Z**公や自己**D**を**F**することが当然のこととされた。今日、滅私**Z**公や自己**D**を個人の幸福よりも**F**させるべきだと公然という人は多くはないだろう。だが、個人の幸福よりも全体の幸福が**F**されるべきと考える人はいる。

「自分だけが**A**ことはできない。皆が幸福で初めて幸福だと感じられることが大切だ」といった政治家がいた。この政治家だけが特別であるわけではない。全体の幸福を考えなければならず、全体の幸福から離れて個人の幸福はないというのはたしかに

その通りだと思う人はいらるだろう。

しかし、このもつともらしい主張が、「皆」の幸福が個人の幸福に「F」するという意味であれば問題である。自分だけが幸福にはなれないということは、全体の幸福が個人の幸福に「F」するということではない。ただ単に、自分の幸福だけを考えることはできないし、個人は共同体を離れては生きることそもそもできないのだから、自分だけの幸福は考えられないというにすぎない。

（岸見一郎の文章による）

問一 Aに入る適切なことばを、本文中から五字で抜き出して書きなさい。

問二 Bに入る適切なことばを、本文中から三字で抜き出して書きなさい。

問三 Cに入る適切なことばを、本文中から三字で抜き出して書きなさい。

問四 Dに入る適切なことばを、本文中から二字で抜き出して書きなさい。

問五 Eに入る適切なことばを、本文中から三字で抜き出して書きなさい。

問六 Fに入る適切なことばを、本文中から二字で抜き出して書きなさい。

問七 X Y Zに入る適当な漢字一字をそれぞれ書きなさい。

問八 傍線①「無意識的に」とほぼ同じ意味を表すことばを、本文中から五字で抜き出して書きなさい。

問九 傍線②「道徳」とはどういうことを言い換えて説明している部分を、本文中から二十字で抜き出して書きなさい。(句読点・符号も字数に数える。)

問十 傍線③「まず自分が幸福になっていいのである」と筆者が主張するのは、子育ての場合、子どもにどのような変化が期待できるからですか。それを説明した一文を本文中から抜き出し、その初めの五字を書きなさい。(句読点・符号も字数に数える。)

問十一 二重傍線 a y e のカタカナを漢字に直しなさい。

二

①～⑩の語句の意味として最も適当なものをそれぞれ後のの中から選び、その番号を答えなさい。

① 逸話

- | | | | | | | | |
|---|-------|---|--------|---|-------|---|-------|
| 1 | エピソード | 2 | ドキュメント | 3 | パラダイム | 4 | プロローグ |
|---|-------|---|--------|---|-------|---|-------|

② 気骨

- | | | | | | | | |
|---|--------|---|-------|---|-----|---|-----|
| 1 | 意外な出会い | 2 | 不屈の気概 | 3 | 無作法 | 4 | 不自然 |
|---|--------|---|-------|---|-----|---|-----|

③ 詭弁^{きべん}

- | | | | | | | | |
|---|------|---|-----|---|------|---|------|
| 1 | 言い争い | 2 | 口達者 | 3 | こじつけ | 4 | 開き直り |
|---|------|---|-----|---|------|---|------|

④ 示唆

- | | | | | | | | |
|---|------------|---|----------|---|-------|---|--------|
| 1 | それとなく気づかせる | 2 | 一つずつ説明する | 3 | 目標になる | 4 | 分かりやすい |
|---|------------|---|----------|---|-------|---|--------|

⑤ 矜持^{きやうじ}

- | | | | | | | | |
|---|----------|---|-------|---|----------|---|------|
| 1 | アイデンティティ | 2 | カテゴリー | 3 | コンプライアンス | 4 | プライド |
|---|----------|---|-------|---|----------|---|------|

⑥おもむろに

- | | | | | | | | |
|---|------|---|-------|---|-------|---|--------|
| 1 | いきなり | 2 | なにげなく | 3 | ゆつくりと | 4 | わざとらしく |
|---|------|---|-------|---|-------|---|--------|

⑦荒唐無稽

- | | | | |
|---|----------------|---|---------------|
| 1 | 想像もつかない不思議なこと | 2 | でたらめで根拠がないこと |
| 3 | どこもかしこも痛んでいること | 4 | 古くから信じられてきたこと |

⑧試行錯誤

- | | | | |
|---|------------------------|---|-------------------------|
| 1 | 自分で自分を批判しつつ、誤りを正していくこと | 2 | 駄目で元々だとしても、あきらめずに我慢すること |
| 3 | どうすればよいかを真剣に考えて、工夫すること | 4 | 何回もやってみて、しだいに目的に迫っていくこと |

⑨ないがしろにする

- | | | | | | | | |
|---|----|---|----|---|----|---|----|
| 1 | 軽減 | 2 | 軽率 | 3 | 軽薄 | 4 | 軽蔑 |
|---|----|---|----|---|----|---|----|

⑩腰が低い

- | | | | | | | | |
|---|----|---|----|---|----|---|----|
| 1 | 謙虚 | 2 | 慎重 | 3 | 高齢 | 4 | 卑屈 |
|---|----|---|----|---|----|---|----|